

令和8年1月度
衛生委員会資料
産業医 上津 佳子

職場の転倒災害について

職場の転倒災害は、一見些細な事故に見えがちですが、骨折や捻挫など重篤な怪我につながる可能性があり、労働災害の中でも発生頻度が高いケースの一つです。特に工場や倉庫、事務所など、働く場所を問わず発生リスクが潜んでいます。

転倒災害の主な原因

転倒災害の背景には、主に以下のような原因が考えられます。

- **環境要因:**

- 床面の水濡れ、油汚れ、凹凸、段差
- 通路の障害物（コード、工具、商品など）
- 不十分な照明
- 不適切な靴の使用

- **人的要因:**

- 不注意、慌てて行動する、よそ見をする
- 疲労の蓄積、体調不良
- 加齢によるバランス能力の低下

冬季は、外から持ち込まれた雪や雨水による床の濡れ、暖房器具の使用による結露なども転倒リスクを高めます。また、年末年始の多忙な時期は、普段以上に慌ただしくなるため、不注意による転倒も増える傾向にあります。

転倒災害を防ぐための対策

転倒災害を未然に防ぐためには、職場全体の安全意識を高め、環境と行動の両面からアプローチすることが重要です。

1. 環境整備:

- **床面の状態管理:** 水や油、粉じんなどは速やかに拭き取る。滑りやすい場所には滑り止め対策を施す。
- **通路の確保:** 通路に物を置かず、常に整理整頓された状態を保つ。コード類は適切に収納する。
- **照明の改善:** 十分な明るさを確保し、死角をなくす。
- **道具の選定:** 作業内容に適した、滑りにくい靴の着用を推奨する。

2. 行動面の改善:

- **安全行動の意識付け:** 「急がば回れ」の意識を持ち、足元や周囲の状況を常に確認しながら行動する習慣を身につける。
- **ヒヤリハット活動:** 転倒につながりかねない危険を共有し、対策を検討する。
- **安全教育:** 転倒災害の事例や対策を定期的に共有し、従業員一人ひとりの意識向上を図る。

定期的な安全パトロールやリスクアセスメントの実施も、潜在的な危険箇所を発見し、改善につなげる上で非常に有効です。職場全体で転倒災害ゼロを目指し、安全で快適な職場環境を作りましょう。